明治二十一年十二月一日刊行
明治二十二年六月五日再版

婦人衛生會雜誌

第五號

（無定價）

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌

第五號

目次

婦人衛生一斑（姙娠の養生）　櫻井郁次郎君

婦人病の原因　長谷川泰君

乳母を雇ふべき場合及雇主と乳母の心得　宮本仲君

本會錄事

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生會雜誌第五號　　明治廿一年十二月一日發兌

○婦人衛生一斑（姙娠養生の事）　櫻井郁次郎述

左は去九月總會の節演述ありしを佃與二郎氏の筆記せられしもの也

婦人衛生と云ふ事　私は始めて出ましたのでありますが、婦人衛生の一斑と云ふ題に就てお話し申上る譯です。婦人の衛生と申しますと甚だ廣ふ御座います、或は平日の養生法などありませうし、又事は替るが、例へば月經時の養生と云ふ樣なヿもありませう、又懷姙中の養生、産の時の養生、産後の養生、其外子供を育てまする間の養生法、又月經の終りまする年齡に達したる時の養生と云ふ樣に、甚だ種類は多いが、今日は其一小部分なる、姙娠中の養生と云ふヿに就て聊かお話しします。

姙娠養生法と云ふ事　畢竟私の申しまする姙娠養生法と云ふのは、公衆の衛生ではない、一人〳〵に就ての衛生です。それ故に規則の樣なものにして、之を何の人にも當箝めて往くと云ふヿは六ヶ敷う御座います、人々平日の習慣、生活の程合、或は身躰の出來などが各々違ひますから、之を同じ規則の中にはむるヿは頗る困難と思ひまするて、聊か規則からして外れましたる樣なヿに就て、一般に必要なる箇條をお話し致します。

姙婦、産婦、蓐婦の文字の事　先づ姙婦と云ふ事に就て一寸其の意味を申しまするど、姙婦とは姙娠の婦人と云ふヿで、是は申すまでも無いが併しながら學問上の名義に區別が有ります。能く世間で産婦だの、或は姙婦だの云ふヿを間違ひて使つて居ります、姙婦とは、今申した姙娠中の婦人と云ふヿであるが、産婦とは、僅か何時間と云ふ時間を定めて産する間だけのヿを産婦と申します、又蓐婦と云ふのがある、是れは産をして後、六週間ばかり蓐の上に在る時を

云ふのです、能く世間で產婦の見舞と云ふことを申しますが、是れは誤て居る、即ち蓐婦のお見舞と云ふべきです、此等の名義の區別はあるが、今日は姙婦の養生法に就て申上るので御座います。

姙娠の時日及び其間の養生大切の事　姙娠と云ふ者は何の位の經過を爲すものかと云へば、大凡の極りが、二百八十日であります、其の二百八十日の養生を爰に申しまするのですが、然し只今申しましたる通り、二百八十日と云ふのは極く大極めて、決して精いとては無い、其の二百八十日の第一日一番始めは、何にとつたかと云ふに、月經の上ッた當日、夫れより數へるのです、併し月經の上りし日が、懷姙した日と云ふ譯では無い、シテ見れば月經の閉ちた日より、次の月經までに懷姙したものだから、十日とか二週間とかの日を經過したる、正しく二百六十五日とか二百七十日とかゞ正しいのであります。我人類に於ては、二百八十日と云ふを姙娠の期日と致しますが、動物の種類によりては、非常の違ひがあります。是れは動物學者が色々定めたとだが、姙娠の經過は身體の大さに比較するもので、身體の大なるものは、其の經過も長いと云ふのは略定りたるとて、象などは動物中最も大なるものであるから六百二十五日と云ふ、シテ見れば二年程も經過を致します。又馬の樣なものは、三百四十六日。ズット降ッて犬の樣なものなれば、六十日。猫の樣なものは五十六日と云ふ樣に、追々動物の大さによりて比較して居ります。只今も申しましたる通り、我人類の經過と云ふものは、大略二百八十日と定めて置きまして、其の間に種々のとが起る、是れを或は衛生法に基て防ぐとが出き或は又不充分あるとは補ふて行くとも出きます。又二百八十日間に衛生の法を得れば、壯健なる小供を生むとも出き、又分娩の際に安易に產す

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ることも出きます、從て產後の日立ちも容易く、惡しき病氣を引起さずに徃くことが出きます。シテ見れば二百八十日間に十分の養生法を行へば、親も子も宜しき成績を擧ることが出きるのですから、是非如何なるお方でも養生と云ふことに注目しなければならんと思ひます。

妊娠中容躰の變化の事　妊娠して居る間には、色々變躰のことがあります、ソレも各々人によりて違ひます、例へば、甲の人は妊娠して、大層からだが、壯健になり、調子が能くなつたと云ひ、乙の人は懷妊してから、頭痛がするとか、息切がするとか、腰が痛むとか、食物を食べぬとか、種々の訴を起すものもあります、又妊娠の始め、或は其の半、或は終りと、時の進むに從て、容躰の大に變ずるものがあります、則ち最初は食事が出きないと云ひ、半は頭痛がすると云ひ、仕舞には足がつれると云ふ樣に、樣々に變じて徃くのもあります。人に因つて違ひ、又時に因て懷妊中の有樣が違ひまするから、之を等しく定りたる所の規則によりて、何月日は斯くせよと云ふ如きことは、到底出きない。仕立屋なれば、五尺の人は是れだけの幅で、何れだけの寸法であると、其寸法を等しく當てはめることが出きるが、所謂活物に就て、生活の有樣に就てはナカ〳〵此の一定の寸法では出合いません。

養生とは食物のみに限らざる事　一躰に我國の人は、養生法と云ふの主意を考へ違へて居ると思ふ、其は一概に養生と申せば、食物と云ふ樣に考て居ます。ソレ故に、毎に私の診察場などで、容躰を演べきらぬうちに、食物から問ふ樣な譯です。申さば嘆かはしき次第です、一躰食物の善惡を擇ぶことなどは決して養生法の主意ではありません、或は永い間醫學の進まない所からでもありませうが、日本には禁忌み

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と云ふことがある、脚氣には小豆がよろしい、午房は毒だと云ふ樣な六ヶ敷い講釋もありますが、元來食物に毒は無き筈です。食物と云へば總て無害のものである、其中只撰むべきものと捨てべきものと、食ふて要のなきものとがあるだけに過ぎません。

妊婦養生大要の事　然ば、妊婦の養生と云ふものは如何ある事柄を申すのであるかと尋ねましたならば、最も簡易なる容易き一語を以て說明することが出きます。則ち「平生の習慣を頓に改むるなかれ」と云ふことであります。是れは、食物から、衣服から、運動其外のことに就ても、悉く其通りで、懷妊したから平日身躰を動かしたものも動かさない、又平日は粗食して居たのが、懷妊したからとて俄かに肉食をなし、牛乳とかソップとか用ゐれば、身躰の釣合を大に失ひます。其外、厚着をしたりする樣なこともあるが、其の平素の習慣を頓に改むること勿れと云ふのは、確言と云ふても宜しい。其外に、清潔と云ふことがある、淸潔とは、部屋も奇麗に、身躰も着物も、奇麗にすべきこと、又新鮮の空氣と云ふて、塵芥などの立たざる空氣、是れが大切です。

貧富貴賤によりて格別の事　然しながら、人には貴賤貧富と云ふものがありませう、是れは社會の有樣で免れざるの數でありませう、貴き地位に居る人、富で居る人、貧しきもの、賤しきものなどは、同一の生活を爲すとの出きぬは勿論、撿束で遣ることも出きない。ソレ故に夫に斟酌をしなければ、到底行はるゝことは出きない。滋養物がよいと云ふて、貧乏人にさとしても、車夫一日の勞動を以て一回の晩餐を償ふことも出きません、併し新鮮の大氣とか、清潔とか云ふことは、注意次第で誰でも出きます。殊に我邦の人は、湯に這入ります、大底貧しき暮しをして居るものでも、毎日一回づゝ入浴するの習慣であり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ます、洵に是れは全身の清潔法に就ては、宜しいとてありますが、然しながら只一の慨しむ所は、湯に入りて身は清めますが、衣服が實に清潔でない、殊に夜分に臥します夜具などは、三年に一度、五年に一度しか洗濯はしない、毎日入湯しても不潔の衣を纏ひ、不潔の夜具に寢る、何の益にありませう。是等は、一に注意次第で例へは洗濯をなさば貧富貴賤の別なく、清潔にするヿは出きるものと思ひます。

妊婦が下を洗ふ事　清潔のヿの序でに一寸申して置ますが、彼の妊婦の陰部を清潔にすると云ふヿがある、是れは、大抵、世間で能く行はるゝ器械杯があるから、夫れで通例列氏の檢温器で二十六度位の微温湯華氏なれば九十度位の微温湯を以て、陰部を洗滌します、是れは誠に必要のヿである。彼の白帶下と云ふものであるが、悪るい性質のものなれば、隨分害を為します。生れたての小供が、激しき眼を病み膿漏性の結膜炎などゝ云ふ最も危き眼病になります、之等は下の方に汚物がありて、其の清潔法を怠りたる為め、眼の中に這入ても、産婆の不注意より眼の毒が取れぬなどゝ云へば、生れながらにして失明と云ふ程にもなります。是等は隨分清潔法を以て防ぐヿが出きます。

妊婦の衣服の事　養生法に就ては、衣食住と云ふヿを申します、是れは詳細に申さねばならぬ。先づ衣服で御座い升が、衣服は形容のヿは捨て仕舞ッて、外來の害を防ぐ所のもので又寒中は、寒さを保護する、其外塵や何かゞたからない様に外から來ものを防ものでありますが、動もすれば外形に基ひて、衣服の制を不適當にし、或は又日本などの風習で、暖かなが宜しいと云ふて、暖ため過ぎる。懐妊したからと云ふて、汗を堪へて、厚着をする。是等は、最とも皮膚を緩めて、風を胃くの素因になります。薄着

は、勿論注意しなければならぬが、要するに、衣服に就ては、別に述るとも無が、餘り緊迫に過ぎざる樣、餘り腹部を壓迫すれば、呼吸より腸胃の働きを妨げるに至ります。詰り程よい樣に致すが肝腎です。

イワタ帶の事　衣服に就て一言申さなければならぬことがある、其は、彼のはら帶のことでありますが、イワタ帶と云ふて、昔から隨分說もあつて、神功皇后の時分から始まつたと云ふ說がある。然しながら別に詳く書たものもなく、只口碑や一寸した書類の言傳へであります。一說には、イワタ帶とは、結肌の帶であるとも申します。然し是れは我國一般の方式でありますから、今更之を捨る譯には往きません、却て私は宜しいと思ひますから、聊か意見をも演べますが、元來イワタ帶は、姙娠五ヶ月頃。即ち胎兒の動きが、己れ自ら感じられますと、其人自ら姙娠たるを悟りて、産婆に帶をして貰う。丁度二十週の頃に、胎兒は運動を始めますから、其際帶をするを、祝と言ひます、然らば、其イワタ帶とは、懷姙の爲めになるかと云ふに、ソレ程に益はありませんけれども、私は間接の益はあらうと思ふ。何ぜなれば、帶をしますと、其人自ら誡める所の心が起る、粗暴の振舞などは致さなくなります、自分が懷姙して居ると云ふとを、帶に因て誡めて置き升から、何の樣な事に出會ッても、斯ンな振舞をしてはなるまい、危き擧動をしてはなるまいと、自誡するの目標になるから、帶の害のない已上は、用ゐる方がよからうと思ふ。造次轉沛も、姙娠たるを忘れぬ樣にするは、必要であるが、併し世間で此の帶をするの目的は、大に間違て居ると考る。何故帶をするかと問ひますと、小供が育ち過ぎると、産をするに骨が折れるから、成るたけ大きくしない樣にと云ふ、果して小供の成長を左程に防ぐとが出きるあれば、姙婦

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

にも必ず害があります。私は帯はすべきものだが、緊しくしないよう、極めて緩るく、只帯が妊娠であると云ふ徴しだけに止めて置きたいと思ひます。當時は、フランチル抔で、ソット卷きますが、ソレで宜しい。一丈も一丈五尺もある布で、ギリ〱卷きつけるはよくは有りません。

日本女服は妊婦の腰下を冷やす事　其外に、一ッ衣服のことに就て考へた事を申すのは、我國人の衣服の製と云ふものは、腰の回りを定規にして、下にダラリット下げる様な工合に出きて居て、丸で空氣が下の方から、小腹部あたりには直接に達する様になつて居ります。從來は、總て坐して居るの風俗であるから、左程に害もなく、腰巻を締めて同じ様なものを幾枚も重ねて、其上の方は着物です。故に妊娠したる婦人の腹部の最も隆き所より、直立して、膝と着物の間は餘程濶きものになります。ソレ故に、椅子に腰をかけるとか、或は起立して事業を爲す様な世の中になれば、非常の害をしやうと思ふ。或はシモカセと云ふ様なことで、小腹に寒冷を覺へます、下腹が釣るとか、白帯下とか云ふことがある。座して居るから宜しいが、若し起て居るなれば、日本の衣服は決して適當のものではあるまいと信じます、之を防ぐには、何うしたら宜しいかと云ふに、最も簡單なる股引の様なものを穿つが尤もよろしい、半股引の様なものを随意に拵へて、寒冷を防いだならば、或は之を免るゝことが出き様と考へまする、且つ衣服は、洋服が宜しいか、和服が宜しいかなどゝ云ふことは、今日喋々するの場合ではありませんから述べません。

妊娠中の食物飲物の事　次には、食物飲物です。食料飲料と申しても、其種類は甚だ多い故に、何は妊婦に益があつて、如何なる結果があると云ふ様なこと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は、記臆して一々玆に述るとは勿論出きませんが、大略如何なものであると云ふ位をお話します。前にも既に申しましたる通り、食物に就て日本の人は、何は何の毒と言ふとを言ひますが、畢竟學理に暗い所から、此の如き事を申したとと思ふ、或は醫者が己れの預りたる患者に對して、通辭を作つたとから起つたのではあるまいか、晩夕豆腐を食ふたから下痢したのだとか、刺身を食ふたから毒になつたのだと云ふ、段々毒の領分が殖へて來てあらゆる食物が毒になつて仕舞つた。詰りは學理に昏いから斯樣な名目を下すに至つたので御座りましよう。食物は固より決して毒ではない、毒を食ふて一日でも生きて居るとは出きません、併し只消化の宜しきものと、悪しきものとがある、是れは能く區別しなければならぬ。世間では、蝦と云ふものは、妊娠の害になる、辛味を食へば何だとか、或は黒鯛は血を荒すなどゝ云ふ唱へがあります。成程、辛しの如き極めて辛刺なる衝動性の物は身躰の爲に餘り宜しくはないが、鯛とか蝦とか云ふ樣なものが、世間の人の稱へる樣に有毒なるものではありません。是れは尋常の食物です、ケレども、蝦などゝ云ふものは、通常の人ですら中るともあるで、膓加荅兒胃加荅兒抔を起すから、ソレは毒だと世人が言ふならば、之を强て毒でないと云つて食ふにも及びません、又ソンな所に義氣を起すには當りません、併し蝦も黒鯛も、決して毒と云ふ譯ではありません、畢竟食物の中で、衝動性の辛いものとか、全身を麻酔さする物とか、酒の樣なものは惡るい。又平日好まないものは、食さぬが宜しい、口に慣れない物を食するも宜しくありません、近來出版の書物（醫者の書物などは勿論）百般の事が渾て歐米のとを飜譯して、彼國を以て基礎として世間に行はれて居ります、ソレ故小供を育

てる時の法とか、或は牛乳を是れ〳〵の割合で、此の位飲ますとか、色々なことを申しますが、是れは歐羅巴亞米利加邊の法で、我國に確然と適用し、當て箝めることが出きるかと云ふに、決して然う箝りません、故に、書物通りの事は、未だ容易に行はれません。先づ一寸、我邦の中等以上の社會の、女子社會女子の成長する程合を看れば、男子とは大に違ッて居る。先づ食物なども、平日チャンと限ッてあります、先づ菓子は胃に悪るい、薬物は食べてはならぬ、水は往かぬと云ふ樣なもので非常に食物に制限が有ります。所が、今歐羅巴流亞米利加流の風俗を見傚ッて、サア今日は水瓜を食ふとか、或は氷で何を製して食するとか、水を不斷に飲むと云ふ樣なことがあれば必ず其人は腸加答兒を起すとか、胃痛を起して、病人となります。實に風俗と習慣とは、衛生には必要なるもので、一々歐米の風に則ると云ふ譯には往きません、前にも演べたる通り、頓に舊慣を革むるなど申すのであります。且つ水を飲みつけないのに、水を多く飲めば、必ず下痢をします。故に日本の人は、食後茶とか或は湯を飲むのですが、此定りたる小供の中からの習慣を改めて歐羅巴風に則り、卓の上に水がある、其水も純粋のものなら兎に角、東京の如き危き水を以て、歐米の式に則りて飲みましたあらば、如何で御座いませう。水と云ふものは、是れまで口に入れたばかり、咽喉に通したことが無いのに、猥りに之を飲みましたならば、必ず病を醸します。西洋に於ては水は二となき飲料であるが、日本では白湯こそ此上なき飲料であると云ふて宜しい。寧ろ水は、麥湯位に換へて置かねばなるまいと存じます。

（未完）

長谷川泰　述
佃與二郎　筆記

○婦人病の元因　（前號の續）

總て病は遺傳するもので假令ば肺勞とか結核とか申す病は「バッチルレン」と云ふて一つの小さな蟲が肺病の患者の手拭或は衣類などから傳染して肺勞になります、又「コレラ」とか熱病とか云ふ疾がある、成程「コレラ」は一度に一萬以上も殺すが毎年有るものではない、肺勞などは殊に十五歳から三十歳迄強健ある者を斃すので在のみならず、子孫に遺傳致します、肺炎肺勞などゝ云ふものは弱い人に付くので肺の力が丈夫で營養が十分なる者なれば、其病を免るゝので有り升、私の見聞する所では、まだ結婚なさらぬ人は肺勞に罹る比例が少ない、殊に多いのは廿四五歳から三十四五歳迄の御婦人に多い、尤も多いのは何云ふ場合かと云ふのに初め壹人の子供が御無難に御母子共育つて、二人めから三人めのお子樣が出きれば、遂に一年乃至一年半も經てば肺病になる事が多い樣に思ひました、斯の如くなるものは遺傳の素質も有りますが、全體肺の弱い人に一遍取り付けば助かる事が出きぬ尤も恐る可もので有るが、二人か三人めの子供が出きて一年か一年半も立つて、何うも前の時から見れば何んだか身體の工合が十分でないと云ふから始まるのが、割合に多い樣に思ひます、是は私壹人の考へではない、既に醫科大學の人などにも此の事を度々話した事もありますが、成程或は然う云ふ樣に思はれると云はれた事もありましたが、身體の衰弱は實に可畏もので、身體が壯健なれば抵抗力が强から大抵の病氣は撥つける事が出きるが、身體の弱い人なれば肺勞の如き病毒弱身に付込まして命を取と云ふ譯であり升から、實に是等の事を考れば、平素から適當の運動をして御丈夫になさらなければならぬと思ます、只今申のは傳染病の事だが、其外の病「即ち子宮などの事を貴婦人淑女の前で申のは甚だ不調法の事とは思ひますが今

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日私が婦人病原の事をお話するに就ては餘義なく子宮と申事も折々逃るか知れませんがソレは偏へにお免るしを願い升」殊に男子に無い子宮病などは、運動の不充分から起る次第でありますから、何も虚弱の人が只弱い〳〵と云ふて居らる丶丈けでは困る、實に容易ならざる關係を持て居るものと思ひ升、今の風潮は只に身體の美麗を競ふて、東京府外の人は又府下の人の美麗を學ぶと云ふの有様で御座いますから、此風潮に反對して相當の運動をなし、貴婦人淑女が疾病の原因を除くと云ふ様になれば、各府縣に於ても皆身躰の運動をなし、病原を除くと云ふ様になりませうから、東京府下の貴婦人淑女が運動なさる丶事は、我日本全國に關係有る事と思ひ升。

扨て斯の如き淑女諸君の身躰の衰弱を、來たす中にも、殊に尤も害の有るのは、危險なる教育の方法であります、近來は段々文明になりまして、申迄もなく男子の學ぶ學科は何學問でも御勉强なさる事になつて從て政府に於てもソレ〳〵女子師範學校高等女學校とか種々の學校が出きて各府縣に於ても大抵女學校の一ッ位は有ります、是等の學校に於ては、如何なる有様でありませう、私の見る所では公私の別なく、身體の運動などの事に就ては更に頓着無い様に思ひます、私の考へる所では追々當局者に於てもスッカリ面目を變じて男子の學校に於て兵式躰操をするとか丸で身體の運動の事に就ては一變しましたが、何うも御婦人方の御勉强になる學校では兵式躰操をなされとは御勸め申ませんが、適當の躰育法をなして婦人の身躰を强健にする事は眞に必要の事と思ひ升、凡婦人の病氣は身躰の衰弱が誘引となつて之を導くので有ますから、願くは我大日本婦人衛生會の貴婦人淑女は右等の點を殊に注意して躰育法の事を御勉めなさる事を望みます、是私が特に第一に運動

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

空氣の二ッの物に就て鄙見を申す次第で有り升。
第二は神經系の發育過度と云ふ事です、是は初め申す如く我々の肉體は筋と云ふて皮の下に有る肉が働いて步行いたします、其他の運動も悉く筋の働きであります、其肉の中に血の通ふ血管と云ふ物が有ります、其血管の中に血が通ふて我々が食事して肉が養の分を取て生活を營むものであります、其外神經と云ふものが有ります、凡そ聽くとか臭ぐとか視るとか寒熱痛痒を知るとか皆是れ神經の働きです、斯く吾々の肉躰の中には神經と云ふ一種の物が有つて大層の關係をなします、シテ身躰を健全無事に保つには神經の發育と筋の發育を平均して往かなければならぬ、若しも一方の神經の發育が過ぎて天秤が狂ッては駄目です、恰好釣合を得る樣に神經も筋も共に發育するのが健康なる身躰で有ります、此平均は尤緊要なるものでありまして、能衛生會の演說などに申ますが、健康なる身躰に健康なる精神有りとか又た同じ事だが軀幹健康にして精神始めて健康なりなどゝ云ひます、即ち丈夫な身體に丈夫な精神有りと云ふ譯です、然うで有りませう、今猛勇なる武將が有ッても若しも病氣で身躰が弱いなら百万の兵を指揮する事は出きない、又内閣總理大臣にしても肺勞を病むとか、又多病で有るなれば萬機を司どる事は出きますまい、又商業に從事する人でも、年中病氣で有るなれば中々懸引する事は出きません、養蠶家が蠶を養ふにしても其通り、總て人間が生活して銘々の本分を盡すには身體が丈夫でなければ出きない譯であります、弱い身躰には必ず弱い精神がある、才子多病とか云ふて病身でも詩作が上手とか、畫を能く書くとか云ふが是は昔しの事で迚も今日多事の世の中に立つには才子多病では追付ません、是は私が申さずとも御來會の諸君に於ては百も御承知の事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て有ります。
偖神經と筋の二ツの發育平均は人間の健康上實に緊要のもので有りまして、神經と筋の不平均からして色々の害を起すが殊に弊害の多いのは婦人諸君で有ります、試に諸君二十年前の有樣は如何で有りませう、嬢樣方が學問するにしても今から見れば遊びの樣なもので學問と云ふ程では無い、女大學でも讀むとか、或は歌でも書くとか、手本でも習ふとか、其外下等社會に至れば幾分か八算見一でも學ぶか、其位の事で實に從前の有樣は今日から見れば學問仕無いも同じ事で、(男子も比例すればソンなものだが)ソレ故に其釣合から考がへれば昔しの娘樣方は格別身體の運動をソウ御勉强爲さらずとも學問が格別六ケ敷無い遊戯同樣の譯で有りますから神經系統と筋の發育の不平均の樣な事は無い、高の知れた事で身體の害に成る樣な事はありません、然るに目今は如何なる景况で有りませうか、是は私共言する迄も無く御來會の諸君は皆御存じで有りませう、實に當今に於ては御婦人方の課業は、男子同樣で有る、此點から考へれば昔しは學問即ち精神の發育と筋肉の平均杯と云ふ事はいらなかつたが、今日は昔しの十倍二十倍も婦人方が御勉强に成るのだから、精神上の働と身體上の働との不平均は如何計りで有りませうか是は申上る程の事は無いと思ひ升。
偖て嬢樣方が精神を過度に勞働なされて、學問上の事を大層御勉强になります、昔しの學問は之を習へば宜しい譯で、道理上の學問で無いから、考へ即ち思慮の點には頓着はいらなかつた、當今はソウでは無い、諳記法の樣な事は昔しでは無い事も當今では總の事諳記しなければならぬので、實に少女の智識腦力を損害する事は甚だしき事で有ります、即ち神經系統等の發育は過度で有りまして身躰の筋肉の働

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

きを幷行しません、ケ様なる所の教育の方法は如何なる結果を來たすで有りませうか、實に身躰の衰弱を來たし、神經質の過敏常にエラ〳〵すると云ふ樣にあります、ソレで無くも女は鋭敏な性質で有、る然るに其上神經系統の發育が盛んなれば身躰の衰弱は甚だ歎ものて有ります、其病氣には色々有りますが殊に恐る可きは子宮病が發するのです、是は實に不容易の結果を來たす其結果が原因となり原因が結果とあると云ふ樣なものです、其故に當今の有樣に於て智識の發育のみに注目して身躰の發育を抛擲し構はないと云ふ樣な事なれば、學問が出ても、斯る孃樣方は後ちに一家を立る樣になつても、迚も十分ある家事を治め或は家庭の教育其外子供の世話とか實に多事の世の中で有りますから毎でも風を引くとか毎も寸白とか半分は寢て居る樣な事ではなりません、今日御來會の貴婦人淑女に於ては生計上の御心配抔は有りますまいから關係は無いが、是より先き世の中が多事になりますから、今から育てる所の孃樣方は是迄の樣な教育の仕方なれば學問が出きて一家の事を治める丈けの材料は備へ居るが、如何にせん身躰の虚弱なる所より之を利用する事は出きない一家の婦人內務大臣たる行政を十分に行ふ事は出きない樣にならうと思ひ升、近來の現況を考へれば此點に於て最も甚敷當今男子は頻りに身躰の運動を致します尤私立小學校抔は屋敷一杯に造つて有るから河岸に出て運動すると云ふ樣な有樣です、從來は甚だ不適當の建築法でアナタ方も御承知で有りませうが私も重もなる學校は大抵驗查して存じて居るが、日本橋區內の常盤學校などは如何で有るか、空氣は悪るい、運動場はサッパリ無い、ソレでも男子は幾分の運動も致しませうが少女に於ては精神のみを勞して身躰の運動を度外にすると云ふは如何な

る事で有りませうか、五六年前の事で有るが私は斯う云ふ事を申しました、東京府下の小學校生徒は饑饉歳の如くで有る、皆菜色をして居ります、后ち此子供が親となり其子が又親となり、百年の後には東京府下に面白い鳥羽繪が出き樣實に恐る可きでは無いかと當局者に尋ねた、ソウした處が何に貴公が云ふ位の事は百も承知だがソレは中々行はれ無い、何うしてと尋ねたら何うも東京府下に於ての父兄は左無きだに公立小學校を忌む、ソレに今單簡なる躰操の事でもすれば徵兵の下稽古を學校でするからソンナ處に遣る事は出きんと云ふ樣な譯で止むを得ず躰育をする事は出き無いと云はれました、今や風潮一變して小學校の生徒でも散歩するが、如何にせん右等の少女に於ては實に少しも未だ運動が無い樣です、男生徒なれば飛鳥山に運動するとか兜を冠ッて調練の真似をするとか云ふが女生徒の景況を見れば右等の事は少しも有りません、若しも斯う云ふ有樣で拋擲して置たなれば後來果して如何なる事に立至りませうか、實に慨歎に堪へん事で有り升。

斯の如き事を、御婦人の前で申して甚だ無禮の樣で有りますが、世の中は陰陽合して成立ち居るが、殊に後來人種の改良とか云ふには其力重に御婦人方に有る事と存じます、何んとなれば世の中の通則で良田には良き作物が出き、瘠田には決してロクな作物が出きるものでは有りません、是は世の常です、人間でも其通り、强健なる人でなければ强健なる子供を生む事は出きません、若しも只今の樣な有樣で過ぎ去ッたなれば我日本帝國は實に亡國の元と考へる、過激の樣だが私の申す事は自分は誤ッて居らんと信じて居る何卒本會に於ては現に貴婦人淑女三百餘名も會員の有ると云ふ事ですから、冀はくは此第二點に於て十分の御注意を願ひ度ひと考へまする、若

しも諸君にして右の事に注意すれば、其他の會員も據ッて精神の發育と身躰の發育とを平均する樣に上の好む所下之に從ふと云ふからアナタ方が御注意になれば、府下一般に於ては忽ち變化を來たし只今の事は咄嗟の間に行はるゝ事と思ひます、特に此點に於ては御來會諸君に御推察を願ひ度ひと思ひ升。

偖其第三の原因は衣服の不適當で有ります、當今は先きほども申す通り文明開化の風潮とでも申しませうか大洪水汎濫とも云ふ可き有樣で、滔々として底止する處を知らん位です、昨年一昨年來の有樣では、東京府下に於て貴婦人淑女が今後和服などを衣る人は恐らく鉦太鼓で搜さなければならぬ樣に成りはしないかと思ふ程です、今日私は本會には始めて出席して御來會諸君の景況を見た所が私が想像したのとは違つて却て日本服を衣た人の方が多い樣に思ひますが、是は、今日の會が斯の如き有樣で平時の御常會には矢張洋服を召した人が多いのか始めてゝすから能く分りませんが、私の第三衣服の不適當と云ふ事に就て申したいのは、實に文明開化の風潮は滔々底止する處を知らずと云ふ有樣ですが、一躰近來の如く婦人が悉く洋服を召さるゝと云ふ樣になれば、何んな結果に成らうかと思ふのです、洋服を衣るのは詰り形容の美麗日本服なればお尻が大きく見えるとか、洋服は大層美しく見えるとか、形容の美麗と不足を補ふ所からの風潮では有りましやうが、亞米利加人が申します先方の者も時と摸樣で衣服は替りませうが日本の婦人が衣る樣な物を先方の人の衣ないのは云迄も無く、若し倫敦巴里の眞中で日本服を衣たならば大層奇妙に思ッて珍重するかは知れない、一般人の衣て居る所ろと違ふから奇異の思ひをするで有りませう、併し世の中の風潮は面白いもので吾々も風潮に壓せられてカッパ天窓になつたのだが、東

京府下の紳士などでも未だ隨分把手の付いて居る人も有りますが、袴羽織でも着て居れば馬鹿の樣です、殊に役所にでも出る人が日本服なれば人にも輕しめられ自らも甚だ頓馬の樣に思ひます、時の風潮とは隨分可笑な事で有る、一般の風俗をしない時は人間でない樣に思はるゝが既に亞米利加人は此婦人の衣服の事に就て大いに歎息します、實に何うも我が亞米利加婦人の衣服は身躰に適して居らない吾々亞米利加婦人は形容の美麗と身躰の欠點を補ふ爲めに此究屈なる衣物を着て居る實に其弊害は恐る可きもので有る、其弊害は如何にと云ふに先き程申す通り子宮病を發すので有ります、ナゼ子宮病を發すかと云ふに是は一躰の呼吸の事に就て一寸御示し申さなければならぬ事が有る。

御同樣生きて居るには、呼吸は勿論緊要のもので、呼吸の理屈を長々敷申せば生理學講釋の樣だから申しませんが、一躰吾々が生活を營むには、色々の作用が有って、全身に血が廻る、若も少も血の廻らぬ時は死んで仕舞、呼吸して居るのも息を止れば死ぬ、呼吸と云ふものは吾々が生命を保つに樞要にして一瞬時も欠く可からざる者で有ります、吸氣の時は酸素と云ふ空氣中の成分を取り呼氣の時は一旦用を爲して不用と成たものが出る、下等社會には布團蒸をして殺したと云樣な事がまゝ有るが此欠く可らざる呼吸の作用をして十分ならしむるには、如何んと云ふに第一我々の胸です、胸が自由に動かなければならぬので吸氣の時膨脹し呼氣の時收縮する此胸の運動は十分でなければならない、胸の下の部分が特に樞要です、即ち横膈膜の運動が自由自在でなければならないのです。何と、諸君洋服は如何の有樣です、斯の如き事を云へば今日洋服を衣て御臨席になつた御方に對して、私が無暗に恐く申すと思召ては甚だ

困却致しますが、總て物は一利有れば一害が有、利害相伴ふ者ですから、苟も宜しい物を御取りになるなれば從て其弊害を防がなければならない、是は世の中の新事物皆共通りです、斯の如く滔々と文明に成に隨て、扨此洋服は美麗な物で容貌を美くし、身躰の欠點を補ひ、婦人をして天女の如くならしめると云から、至極結構の事で有りますけれども、害が有る恐る可き弊害を伴ふて居ります、申す迄も無く、米の飯も食ひ過れば病氣に成りませう、甚しきは食ひ過て死ぬ事も有る、飲食ですから度を過ごせば健康を害するのみからず、生命を失ふから衣服も其通りです、何んな美麗な衣服でも美麗に從て其弊害は相添ひまする、ソレ故私は洋服を衣るのは惡るいと云ふのでは無い、文明の風潮に依て起る所の病源が有る、ソレに就てお話しをするので止むを得ず美麗なる洋服は如何なる弊害が有ると申ふすのですから、其思召で御聽を願ひます、アイツは和服を衣て來て婦人の洋服をケナス怪しかると思召すか知らぬが、其邊は偏に御熟慮を願ひ升。

亞米利加に「ヒラデルヒヤ」と申す大都府が有るさうで御座います、其所に婦人病院が有ッて「トーマス」と云ふ教授が有ります、其教授が亞米利加人で有りながら、滿天地洋服で有る所に於て、(日本婦人などは無ひ所)其弊害を述べたる言葉に、婦人社會の衣服は徒らに身躰の美麗を是れ事とし、新調の衣服を着する其有樣は、左ながら、副木を貼するが如しと、副木とは手足の骨の折れたる時に骨のクッ、ク迄動かさない樣にする道具であります、病氣なれバ、仕方がないが、健康な婦人が、副木を着けるのは如何なる譯であらうか、實に其弊害たる甚しき物です、先き程も申した通り、呼吸の作用には、胸の運動殊に胸の下部の運動が、充分でなければならぬ、然るに

今洋服を着ければ、横膈の擴張を妨げるので、其結果として、子宮病が發る、ナゼ子宮病が發るかなれば、胸を締めるから、横膈が脇の方に擴張する事が出きず、多くは腹の下方に向つて、押すので、腸が上から押され其腸が子宮の方に向つて、チッペシまするのです、元子宮は自由に動くものなれば、骨盤底の方に押し出され、或は位地を變じて、横になる樣な事を發します、」加之洋服の爲めに、絞肝と申す病を發します、甲冑見た樣な、洋服で締るから、西洋の婦人は、肝臓が大層下たに出て二ッに分れ(尤も切れはしないが) 一ッは上、一ッは下になります、我國では、數十年間洋服を衣た婦人も無いから、斯の如き病を實見する事も出きないが、夜となく、晝となく、洋服を衣たなら、絞肝も發しましよう、既に日本の小兒は附け紐の爲め胸を締めます故、胸の發育が惡るいと云ふ事で御座ります、然るに貴婦人淑女が好んで、甲冑の樣な、服を衣て肝臓を半分に分つと云ふ樣な事をするのは、餘り、褒た事でもない、確か先々月頃の事と思ひました、某氏の妻君が急性の腹膜炎を發しました、腹が張つて隨分危險の病です、懇意の醫者の申すには、是は着つけない洋服を衣たから發したのである、幸に機會を失はずして治療しましたから全快しました、是れが拙醫の手に懸けるか、時機を失なつたなれば、死んだかも知れない、なんと、身體の美麗を飾る洋服から湧き出る弊害は、恐る可きものでは、御座いませんか。洋服の爲に胸を締め、子宮は位置を轉じ子宮病に罹る、子宮病ある者が婚姻すれば、種々雜多の病を醸す、好し生命を失ふに至らずとも、癈人同樣になるの恐れがあります、三百人も婦人病人を入れて置く病院長ドーマス氏が何うかして、婦人の洋服を廢める譯には往かぬものかと、歎息せしは、尤もの事でありま

す。何うかしたものでありませうか、あちらの婦人が日本服を、着やうと申しましても、日本の男子が頭に把手を付た樣なものでトテモ行はれまいから、仕方もありますまいが、何も求めて日本婦人社會をして、洋服社會に變ぜしめないでも宜からうと思ふのです、是は私の一己の考へで、實に美麗の洋服當今の文明の風潮の時節では洋服は止むを得ざるの有樣でも有り、美麗にも相違ないが、弊害を如何にせん、衣ないなれば其弊害はないのです、日本服なれば胸は十分に、膨脹が出きる、腸をして子宮の位地を變じ、病氣の原因を醸す樣な事は無い、左れば斯の如き滔々たる文明の風潮なる處に來て、私の考の如く府下の貴婦人淑女をして、洋服を着ない樣にと云ふのは一己の私見て、アノ氣違は何を云ふか位のものですから、行はれもしまいが、今日御來會の貴婦人淑女は、私立大日本婦人衛生會の御會員で在せらるゝから、洋服を衣ても開化に伴ふ弊害の點は何卒御注意を仰ぎ度いと、私は思ひます。身體さへ美麗ならば、病氣を發す樣な事は頓着は無い、病が子供に及んでも差支無いと云ふ樣な、考への御方は今日御臨席は無い筈で、申上る迄もないが。若しも下等社會の者なれば、教育も無く、道理も知らないから、頓着もしますまいが、諸君は學問上の道理其外色々の關係の事を御承知で、殊に健全無病でなければならぬと云ふ處から、私立大日本婦人衛生會も立ち、御盡力に成るので有りませう、否、ソレは亞米利加人はソンな寐言を云ふかは知れ無いが、日本帝國の女は、身體が違う、腹膜炎を起す樣な事は無い、又亞米利加人の樣に肝臓が裂けると云ふ樣な事は決して無いと、云はるゝか、ソレなれば、仕方が無いが、其樣の事は諸君が云はるゝ筈も無いと思ひます、願くは洋服から

起る處の子宮病の如き、腹膜炎の如き、斯く致したあらば、防ぐ事が出き樣と云ふ方法を、講究して、世の中に示す樣に、したならば、單り本會の貴婦人淑女が弊害を免るゝのみならず、東京府下は勿論、他府縣にも利益を及ぼす事と思ひますから、吶辨を顧みず長々しき鄙見を、述べた次第であります。

（完）

○乳婆を雇ふべき場合及び雇主と乳婆との心得方

（十月常會演說）

宮本仲述
佃與二郎筆記

何か美くしくつて甘味があるとをと思つたが、何分能き考もありませんで無據乳婆と云ふ演題を掲げ出しました、併しアナタ方が爲になつたとか或は面白かつたとか思召して下さるか何かは豫じめ請合れません。

全躰私は唯今佐々木君の云れた通り衛生會は實行する事が大切で有らうと思ふ、若し實行する事が無いあらば、アナタ方に對して甚だ失敬な申分では有ますが、此會が決して何の役にも立まいと思ひます。近來衛生會とか改良會とか云ふが澤山に起つて殊に衛生會の如きは通俗だの婦人だの私立抔と中々盛に開けて居ます、そしてお三が臺所會議を開にも或は長家の山の神が井戸端評議を始るにも、直に頑固大家の掃き溜の掃除に注意しなくて健康を害しそうで困るとか、魚屋が今日持つて來た鮪は直段は廉が臭氣が有から胃を害するダローとか、種々の衛生論が始る位になりまして喜しきとです、併お三が衛生の事を實行するにも奥樣が第一に注意して下さらなくては十分に行へる譯にはいかない、急度貴君方の如き教育の有る方々が先に起て話も聞き實行も成さらなければならん、衛生と申す事は今一般に風が吹て來た所だから實行して下さるにも大層樂の事であらうと思ふ、何卒本會に於て之を實行して下されたな

らば私共誠に結構の事に存じます、而て愈々之を實行すると云つても一人二人がするのみでは役に立たず可成お知合の人を此會に連れて御出に成つて遂に東京中の婦人を悉く衛生家と爲し下されんことを望ます。

偖て私の今日の演題なる乳母の事は未だ御子樣の御坐いません方には誠に面白くも御坐いますまい、併し始終はドナタでも早晩御子供を御產なさらなければならぬ方々なり若し其なし共又御自分の御親類とか御兄弟も有るものですから私の申した事を成程と思召たならば皆樣に御勸め下さい私も幸です。

乳婆を雇ふべき場合と云ふのは一度乳婆を雇つた御方は御承知で私の申す迄もないが如何なる場合に乳婆を雇はなければならぬか、皆樣も乳の少ない時には乳婆を雇ふと云ふ丈けは御承知で有ませう、又た夜會の樣な所に御子樣を連れて行つてピン／＼舞踏をする事は出來ませんから其時も乳婆が必要であらうと御悟りに成ませう、併し唯だ斯樣の事のみに因て雇ふ計ではありません、即ち之を大別すれば一ッは必要の場合に一ッは便利上の場合に出で、何時でも雇ふと云ふ事には行ません、元來生れたる子供は總て乳婆に托すべき者か、自分で養ふべき者かと云ふ問を起して申ませう、一體子供は今佐々木君の演られた通り十ヶ月間母親の胎內に居て其血を以て養はれ十ヶ月後に御腹の內からピヨイと飛出す、飛出せば胎內で此を養つたる所の血が廻歸して更に乳房の方に行き乳房は乳腺より成れるが故に、先頃私が御話し申た唾液腺の唾液を製出するが如く血液を以つて乳汁を釀造し以つて小兒の養料とする次第です。胎兒が出生すれば其臍の緒は產婆が切てしまいます、さすれば（臍帶は母の血を兒に送りて營養する脈管より成るもの）小兒は是の後必ず外から養を取らな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ければならぬ、尚は解し易く言へば胎内では臍から養料を取りたるものにてあるなれど胎外に出れば口より養を取らなくてはならず、依て初生兒は自然に口を開て乳を吸ふと云ふことを知るに至ります、故に子供がオギャーと云ふや否や呼吸を初め息を為ると同時に一晝夜も過れば其の腹が減て來る丁度能く母親の乳が出て來る誠に宜い都合に出來て居り升。

右に依て考ふれば母親は兒の胎内に居る間は其血を以て養ふたが、外に出ればモウ構はぬ是からは乳母に任せ切りにするとは少々殘酷の樣に聞へます、昔希臘の「プルトラハ」と云ふ人の申た話に、母親は産計りが務ではなく養ふべき務めも持て居る、其證據には母親には乳房が有りて乳汁が出る、是れ子供を養はざるべからざるの天理である、左れば人間以下の補乳動物は決して他の救を受ると云ふ事も無いのに生めば必ず養ふと云ふことを知ておるではないか、此を以ても人間たる者は勿論自ら養はなければならぬと云ふ務あることを證するに足と云れました、併し人間には一ッ他の動物より打越た所のとあり、即ち人間は多き物より不足を補ふと、事の便益あるを知て遣繰するの智惠を具へて居る、人類以下の動物は親の乳が不足しても他より求ると云ふ事が出來なく乳が無ければ其子を育ふ食物に困る、然るに人間は生母の乳が不足すれば乳に換ふべき物を持て來て飲せ養ふと云ふ事が出來る、此が人の人たる德なり、して見れば强ちに他物を以て母乳に代るのは惡い者と云譯にも行んです、併し近來の如く乳母を濫用する樣に至りましたのは甚だ宜しからぬ方です、總度濫用を防で要用の塲合のみに雇ふ事としなければならぬ、然すれば乳婆は大層結構なものと云ふの外なし。

乳母濫用とは何ふ云ふ事かと云ふに、要不用を論ぜずして雇ふを言ふので、假令ばアナタガ若くは華族

さんの樣なる身分貴き奧方たる者が子供を背負つて歩く事は出來ん、又子供を懷にして泣出せば誰の前でもかまわず直ぐに胸を開けて乳を飲せると云ふ事も出來ない、又た子供が有つては樂に遊ぶとも出來ない、就ては何でも乳婆を雇ふがよからん抔と必要と云を省みざる譯になるので。成程世間の人が誤想するには大な大名にでも金滿家でも右の通にて乳婆を雇ふ事は當前であると、若し雇はなければ却て人に吝とか儉とかに過なと゛ゝ毀られるから無據生母の乳の多少に關せず乳婆の乳の良否を論せず、外見や御附合に乳母を雇ふ樣に至りました、是れ即濫用です、然るに近來小兒科の醫師も殖へ嬰兒滋養法も次第に開けて乳母を雇ふには單に乳汁ばかりの檢査でなく躰格迄をも調べなければならぬと云ふ事成り昔の有樣とは總て一變して來した、昔なれば先子育地藏に願を懸位で、乳婆の良否には一向頓着せずに子は育と思た、併し若し其如に濫に乳母を雇ならば、金（生母の良乳）を捨てゝ銀（不良の乳婆）を取る樣なとが出來ぬとも云はれず、銀あらば未だしものと銅や鉛に代と云ふ樣になるかも知れん、サレバ此婦人衛生會に御入會の方々は申迄もなく此の弊を矯て戴かねばならん、育兒に尤も要用ある點です。

乳婆の濫用と申す事は何から起ると云ふに、大凡外見と懶惰主義とより起るものである、私は偏に之を矯んと存するなり、元來乳母は雇ふべき者か雇べからざる者か此二ッの點を考へて御覽じろ、即ち雇ふべきかと云に補給上よりしては或子供に乳が不足するから其の不足を補ふて遣りたいと云ふ道理（保育の必要）も有ます、所がこれを情義上から論じて見れば乳婆は廢す方が宜いと云ふ考が起らなければならぬ、何故なれば、前に申す如く自分で產だ子供は自分で育てなければならぬと云ふ道理がある、假令ば

甲の母に一人の子供があり又た乙の母にも一人の子供があるとし、其甲の母親は富と貴とを以て乙を雇ふ、乙の雇はるゝのは貧賤なる位置に居るから己れの子を養ふて居ては我口を糊する事が出來ず、若し此の乳を他に讓るならば食する事も出來服する事も出來ると云ふ衣食の望を充たさんと云所から、我が愛らしき子供を顧みて居るにもあらす泣々之を捨て他人の子を養ふ手段を企るのである、故に雇ふ人も之れを考へれば其情實誠に憐むべきで、彼れは彼れの愛らしき子供を捨てゝ我家に來て居るのだと位置を換て考られたらば、實に氣の毒千萬の哀れな斷で御座る、然るに之を不愍に思はねば不人情といふべしてす、不人情との惡口では或は御立腹なさる御方が有るかも知れぬが、互に人情愛情を酌んで見たならば乳母は廢したら宜らう廢して然るべき者かとの念慮が浮みます、併し夫れを濫用せずして保育上から哺育を附る以上は是非く互の幸を得んと謀ふの一個の愛情で、若し乙が我が愛する子だからと云て他に行かず甲も乙の子が可愛ソーだとて雇はぬ時には乙の母子共に口を糊する事が出來なくなる、然るを雇はれゝば其給金で親子が助り得ると云ふ便利があるから寧ろ人の子を養ふ方が乙親子の爲めに都合よく、又た雇ふ方でも彼に便益あることとならバ慈善とある、されば道理上から云へば廢すべきものか否やとの議論が起るが、兎に角便利法で有るとせば、先づ雇ッて宜しい雇れても宜しひとの判斷が穩當否あ道理であり升。

ソコデ乳婆には如何なる種類が有るかと云ふに、先我に雇入る者と乳婆の家に預る即ち里子との二通あります、雇入ます乳婆にも全乳と半乳（半乳とは乳を十分に與へぬものとの）二つか有る里子には月に三四回位彼れに與へて養育して貰うので中には五回

も十圓も取るものも有ませう、而して二才なり三才なり一人遊びの出來る迄預けて置ので有る、併し各方に最も必要なのは雇入るゝ乳母で有ります。

乳母は醫者に於て充分に體格試驗とか乳汁の多少若くは良否を檢査して貰なければならぬ（此事は到底一日位では斷し盡す事ハ出來ず二回も三回も演べなければ御譯りにも成りますまい）乳が多いとか少ないとか單簡なる試驗をして雇入のは昔しは宜つたかも知れんが今日は子供の爲に充分鑑定を致さなければなりません、啻に醫者の鑑定のみならずあなた方の御雇に成つた時分にも亦幾分の御心得が無ければならん、醫者の試驗が濟んだからモー宜しひと云ふ事でハならん又乳母の心得をも知らないと往けませんから是より雙方を申ますが、併しあなた方に向つて乳母の心得を講ずるのでハ有ませんから蔑視した失敬だとお咎めにならぬ樣に願ます。

更に乳母を雇入る時の場合を申せハ、之を別て必要上の場合と便利上の場合とします、又必要上の場合を區別すれハ生母の素質、次に從來の痼疾及ひ産前産後の病氣、次に雙兒など出來て一人で二兒を養ふことの出來ぬ場合、それから年子と云ふ事があるが之には先づ不用なり（年子は隨分に有る事で御座りますが元來乳を與へて居る間ハ子供が出來難く出來れば乳か止る其頃には最早乳ハ與なくても宜ひといふ時分が來る者です假令ば今年の一月に生たる赤子ある人には極早くつて來年の一月又生れる其妊娠五六ヶ月にて乳の不足する頃には小兒ハ七八ヶ月の成長となり牛乳杯も十分に飲む又上下に少し歯が生へ漸く噛事も出來其から甘々ても「マーヽヽ」でも「パーヽヽ」でも出來る樣になる左樣になれはモウ母の乳を以て養はないでも宜ろしひと云ふ鑑定物が出來たのである勿論滿一年位になれば乳のある母にても廢

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

止する方が宜い故に年子には乳母の必要はない）ソレよりも一層傭を從のが便益です、次に身體が健康でも乳の不足なる人もあり、乳が多くても乳の性質が惡ひ人がある（貧血性の母なれば血潮ひから乳の分量も渉くして水の樣である）、又健康なる母親で產前には別に病無く產後にも是ぞと云ふ病も無つたが、併し先きに儲けた赤子は驚風で死し又次の子も驚風で沒したと云ふ樣な事實かある時ナドは或ひは其母親の體質か子供に適しないのかも知れぬと云ふ如き疑ある場合、又乳首の形惡くして哺啜におらぬ場合、以上の如き時に際しては乳婆を雇ふが宜しう御座います、夫から便利上の場合に就きて先き程も申た通り富貴ある人とか、又御嫁樣が尤年少かくて子供を持ち扱が不十分なるか、或ひは家事を經濟するには己か命令者即司令長官に成つて家內の兵隊を指揮する如き人は迚も子供を育てゝ居る事が出來ない、

假令ば商家で妻君が才配を取らなければ職人も小僧も働かぬと云ふ樣な場合、又た職業にても其の通り女敎師とか電信技手とか簿記方とか是等の職業を身自ら執つて居れは子供の爲に職を離れると云ふ譯にも行かん、又交際家として客の應接に暇なき人も有ませう、是等の場合は乳婆を雇ふ方が經濟上にも宜しく又小兒の爲にも宜しいから便利的の必要と看做して乳母を傭ふ是決して濫傭にあらす、但し生母の乳に代へて養ふものに兩通りの仕樣が有る一は乳母即ち天然の滋養法、一は牛、山羊、驢馬等の乳汁及ひ小麥粉飴等を合せて造りたる乳の如き物など即ち人工の滋養法なり、ソレて今申た必要の場合には乳婆を雇に非ずば之に代るに人工の滋養法を以てします、作去乳婆を以て養育致すに越すとはありません。已上必要上と便利上との場合を述たるが各位は右必要の場合の他は可及的御自分て養育するとの利益あ

る點を考へて濫傭せぬ様に御注意あり度く存す。」（未完）

本會錄事（自廿一年九月至廿一年十一月）

○九月一日午後一時より大學講義室に於て本年第二總會を開く當日天氣晴朗隨て暑氣甚しかりしと雖も來會の會員百八十餘名あり頗る盛會なりし第一

婦人衛生一斑（妊娠之養生）　櫻井郁次郎君

の講談あり次に荻野吟子氏立つて本年三月以降八月に至る六ヶ月間庶務の報告をなし次に役員の改撰を行ひしに左の諸氏當撰承諾せられたり

會頭　加藤鈴子
副會長　南部隈子
幹事　村岡久野子
仝　濱尾作子
仝　荻野吟子
仝　細川靜子
仝　大澤作子

右役員の外補缺員として左の五氏を撰ぶ

長與園子
南部隈子
三宅藤子
岡田美壽子
太田幾子

撰擧終りて

臺所の衛生　長井長義君

の講演あり全く閉會を告げしハ午後五時過きなりし

○十月六日例の如く大學講義室に於て常會を開く夜來降雨あり午後に至り益す甚しかりしを以て來會者僅に三十餘人午後二時開會四時半終る

當日左の二氏の講演あり

衛生法ハ實行に在り　佐々木政吉君
乳母を雇ふべき場合及
乳母と雇主との心得　宮本仲君

次に本會規則第八條幹事五名とあるを七名となすの議を役員より提出し其可否を來會々員に問ひしに全員贊成にて可決せり其新撰者は補欠役員の中左の二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

氏を擧ぐることとなりて共に承諾せられたり

三宅藤子
長與園子

〇十一月三日大學講義室に於て常會を開く當日は陰雲重々今にも雨ふらんとするの模樣ありしかど幸にして終日雨なし天長の佳節と云ひ定めし滿場の會合ならんと思ひしに佳節だけに他に差支ありてか僅か四十餘人の來會者あり午後一時半開會

看病の談話　木寺安敦君
子供保育の話　仝
衣食の話　長與專齋君

右講演終はりて午後四時半頃散會す

〇十一月十一日午前十時より本會創立第一紀念懇親會を小石川大學植物園に開く來會者七十餘名午餐の會食を催ふし福引其他二三の遊戲あり懇談親話舊交の情を濃にし新知の歡を盡し誠に愉快なるあつまりなりし午後五時散會す

〇十一月十三日役員評議會を開き從來發行し來りし號外雜誌を廢刊することに決せり

本年九月以降十一月迄の間に於て本會へ向け金圓を寄送せられし方あり則ち左に列記し聊か謝意を表す

一金參圓　會員　大澤作子君
一金參圓　仝　三宅藤子君
一金壹圓　仝　宮田慶子君
一金壹圓　仝　三浦留子君
一金三圓　仝　小立爲子君
一金壹圓　仝　土井榮子君
一金壹圓　仝　荒川八重子君

〇明治廿一年十一月調現在會員數

總計現在會員數三百〇三人

內

終身會員	六人	
府下會員	百八十七人	二百六十六人
府外會員	七十九人	
府下贊成員	二十人	三十一人
府外贊成員	十一人	

○本年自九月至十一月三ヶ月間入會者姓名住所

日高りき子　麹町區一番町
羽田三緒子　赤坂區一ッ木町八十一番地
堀内松次郎　山梨縣南都留郡大石村
脇屋貞子　神田區猿樂町
辻富貴子　京橋區三十間堀二丁目五番地
堀江みつ子　芝區佐久間町壹丁目壹番地淺井方
大野春子　麻布區仙臺坂上竹屋町六番地
磯田正廣　仝上
櫻井郁次郎　日本橋區矢之倉町拾五番地
荒川八重子　栃木縣橡木萬町安野久次郎方
中田喜代子　神田區今川小路貳丁目六番地
兒玉しか子　日向國延岡元町廿六番戸
山﨑松太郎　仝　紺屋町五十番戸
何多仁子　赤坂區桃田原町三十三番地
加藤やす子　下谷區練塀町二十二番地
新井田次郎　神田區美土代町二丁目二番地杉浦方
山岡勢以子　芝區本芝三丁目拾五番地
片山龜子　小石川區茗荷谷山川別莊
磯永里子　横濱山手百六十六番
富田ゆう子　神田區小川町九番地
山本りう子　麹町區飯田町四丁目貳番地
荒川梅子　神田町錦町壹丁目八番地
柴原兼子　羽前國山形
正木菊子　仝　山形千歳園百四十八番地
濱田梅子　仝　山形旅籠町六百四十五番地
菅井久子　仝　山形旅籠町三百五十三番地
關岡つま子　仝　山形七日町

計二十七人

○本年自九月至十一月三ヶ月間退會及死去者姓名

伊藤いの子(死)　岡澤貞一郎　藤村政子
本田みつ子　河原清子　小澤志賀子
城みわ子　細野敏子　設樂隆子
村岡範爲馳　高橋なを子　松田梅子
柳節子　德川よし子　森綾子
蜷川久江子　竹内いか子

計拾七人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會規則（改正）

第一條　凡本會の目的ハ汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を增進するにあり

第二條　本會ハ私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條　本會の會員たらんと欲する向ハ身分の尊卑を問ハず何人にても入會するとを得

第四條　會員たらんと欲する向ハ族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し

但事務所ハ京橋區日吉町八番地に之を置く

第五條　入會後轉居する向ハ速に事務所に通知ある可し尤死去の節ハ親戚知友等より通知ある可し

第六條　本會々員ハ分て終身會員通常會員の二類とし共に會費金を納むるものとす

但終身會員ハ一時に金拾圓以上を納め通常會員ハ一年金壹圓貳拾錢（三月九月の兩度に金六拾錢）宛を納むるものとす尤も會員中書生及其他事故ありて定額を納め難きものハ唯雜誌料として毎月金五錢を納めしむ

第七條　男子にして本會の主義を賛成の向ハ之を賛成員とす尤も會費金ハ本會員に同じ

但本會に功勞ある向ハ役員の協議を以て終身賛成會員（無會費）とするとある可し

第八條　本會に左の役員を置く

會長一名　副會長一名　幹事五名　書記若干名

第九條　會長副會長及幹事ハ會員の投票を以て之を互撰し書記ハ幹事の推撰により會長之を命ず

但書記ハ都合により會員外の婦人又ハ男子に托するとあるべし

第十條　會長ハ本會を總理し副會長ハ會長を補佐し又ハ其代理をなし幹事ハ會長の命を受けて會務を處理し書記ハ上役の命に從て諸記錄及雜務を掌る

但幹事の分課を設けて　第一會計　第二編輯出版　第三庶務とす

第十一條　會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に評議員を置くことあるべし

第十二條　會長副會長及幹事の任期ハ一年とす尤も再撰するも妨なし

第十三條　會長副會長及幹事ハ無給料とし書記ハ相當の報酬を給す

第十四條　本會の集會ハ七月八月を除くの外毎月一回とし通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條　毎會學士を聘し講義演説を囑し本會々員の演説と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し四季各一冊つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす

但し演説の間に談話を交ゆることあるべし

第十六條　會員ハ家族の婦女子又ハ知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむることを得

第十七條　講義演説の際男子の傍聽を禁ず

但會員に緣故ある男子ハ此限りに非ず

第十八條　本會の所有金ハ本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

但些少の金額ハ日々の費用支出の爲事務所に引出置を得

第十九條　會計の收支ハ總て會計課幹事の捺印を要す

第二十條　會員又ハ會員外より金圓若くハ書籍物品等を寄贈あるときハ本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

第廿一條　會費ハ郵便小爲替にて東京芝口郵便局へ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

向け振出しある可し

但不得止場合には郵便券（一錢券に限る）を代用するも妨けあし尤一割増とす

第廿二條　入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の向は郵便券二錢を添ふ可し

第廿三條　毎年三月九月の集會に於て會計の收支庶務の概畧幷に會員の増減等を報告す可し且規則改正の案あらば之を報告するものとす尤議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す

但至急規則の改正を要する事あるときは預め會員に報して臨時に之を爲すことを得

第廿四條　毎年九月の集會に於て役員の撰擧をあすものとす

第廿五條　規則の範圍内に於て役員の評議を以て其細則を設くることを得

第廿六條　各地方にて發起者十八以上ある者は支會を設くることを得

但其規則は本會の規則に牴觸せざる樣起草し本會役員の認可を經べし

第廿七條　本會の集會場は時々報知する者とす

第廿八條　會費金は受領證を付與すべし尤小爲替又は郵便券にて納むる者は右受領證遞送費として郵券二錢を添ふべし然らざれば受領證は送付せさるものとす

第廿九條　退會せんとする向は會員證を添へて其旨事務所へ報知あるべし

東京京橋區日吉町八番地
私立大日本婦人衛生會

○番地記

東京衛生試驗所	東京神田和泉町一番地
牛痘種繼所	同　下谷二長町一番地
藥草試驗園	同　小石川指ヶ谷町七十七番地
帝國大學第一醫院	同　本郷元富士町一番地
同　第二醫院	同　下谷和泉町一番地
東京鎭臺軍醫部	同　麹町隼町一番地
同　病院	同
軍醫學校	同　芝公園内一番地
軍醫學舍	同　麹町富士見町四丁目十四番地

私立大日本婦人衛生會事務所
東京日吉町八番地女學雑誌社内

本會雑誌編纂委員　荻野ぎん子
鈴木まさ子

發行所　東京京橋區日吉町八番地
私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人　東京京橋區日吉町八番地寄留　巖本善治

印刷人　東京芝區源助町拾壹番地寄留　森田豊

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN